

いっしょによもう、いっぱいよもう (こども読書週間 4/23~5/12)

進級おめでとうございます。春の植物のように、学びの芽をいっぱいのはびしていきましょう。  
学校の図書館は、みんなの読みたい、知りたいに答えるため、いろいろな本をとりそろえています。  
みんなといっしょに、いっぱいよんでいきましょう。  
学校司書の奥脇晶子です。明德小学校2年目になります。  
どうぞ、よろしくお願いします。

## とよかん 図書館へようこそ!

みんなの読みたい、知りたい気持ちを大切にします。



### そうだん 相談しよう

さがしている本がある時や調べ方が分からないときは、  
何でも相談してね。



### 「よやく」をしよう

読みたい本が図書館に見つからない時は「よやく」をしてね。順番がきたらお手紙でお知らせ  
します。学校の図書館にない本は、市の図書館から借りたり新しく本を買ったりします。



### おたのしみ

「くじの日」は、9がつく日にあり、「くじ」をひけます。くじの日には、「とくべつかしだし  
けん」がもらえます。30冊よむごとに、「ブックチケット」がもらえます。

## 家庭でできる 子どもを本好きにする 基本のポイント

- 1 子どもの好きな本を買う・・・恐竜、図鑑など難易度よりも子どもの興味を優先する。
- 2 家族が楽しそうに本を読む・・・家族が日ごろから読書を楽しんでいると、自然に子どもも本に興味を持つようになります。
- 3 読後、子どもに共感する・・・聞き上手になる。「面白いね」「それからどうなったの？」など興味をもって聞き、共感する。

## とよかんのちかい

- 1 みんなが読みたい本を読めるように準備します。
- 2 みんなが調べたいことを本や資料で応援します。
- 3 だれが、どんな本を読んでいるか、ひみつを守ります。

## 山陰中央新報新聞に 明德小学校の図書館活動が掲載されました

黄色い手帳運動推進協力会からキャンペーンの一環として、山陰両県の小学校に図書を贈る活動がされています。このたび、明德小学校に8冊の本を寄贈していただきました。新聞に子ども達の様子を紹介してほしいと依頼があり、掲載されることになりました。



**鳥取市立 明德小学校**

鳥取市立明德小学校（徳高雄一郎校長、140人）では図書委員会が中心となり、読書の楽しさや大切さを全校児童が共有できるイベントを積極的に開催しています。

4年生以上の11人で構成

本のタイトルしりとり、本を読んで解答を探るクイズラリーなど多彩な催しを立案。ほかにも学年対抗で借りた本の数を競う「GOTO図書館キャンペーン」や「本探しゲーム」など、低学年でも楽しみながら本に親しめるよう工夫を凝らしています。

一方、週4回の「朝の読書」や、学年ごとの推薦図書設定、半年間で60冊または1万2千ページ以上読んだ児童を表彰するなど、さまざまな取り組みで児童の読書意欲の向上に努めています。週1回来校する地域住民や保護者による読み聞かせボランティアの協力も大きな支えとなっています。

司書教諭の安田知佐子さんは「読書の楽しさを感じてもらうことを大切にしています。読書を通じて豊かな感性を育んでほしい」と話します。

同校には「丘のうえのいっほんの木に」など8冊が贈られました。

読書まつり「しおりコンクール」を開催